

《原 著》

『工場飲食物献立表』にみられる栄養概念普及活動の背景 —愛知県工場食共同炊事場の資料分析を中心にして—

中野 典子¹⁾, 馬場 景子²⁾

¹⁾ 相山女学園大学非常勤講師, ²⁾ 日本福祉大学非常勤講師

要 旨

【目 的】

1916年愛知県警察部工場課内工場会から出版された『工場飲食物献立表』と1918年に日本で最初に設立された愛知県の2箇所工場食共同炊事場が所有した一次資料を分析することにより、日本における工場食共同炊事場が栄養普及に果たした役割を分析する。

【方 法】

当該工場食共同炊事場の資料「献立予定実施表」、『工場飲食物献立表』、「三河織物共同炊事所累年誌」、「栄養学練習帳」から「献立予定実施表」と『工場飲食物献立表』の関連、「三河織物共同炊事所累年誌」から起共同炊事場の二次設立に関して。同資料より配給数と食品栄養価をもとにした分析を行った。

【結果及び考察】

『工場飲食物献立表』は愛知県警察部工場課が、工場労働者への食と健康増進のために出版された啓蒙書であった。同著が出版された1923年の時点では、栄養素は「蛋白質」、「脂肪」、「含水炭素」のみであった。「三河織物共同炊事所累年誌」の食品栄養価は、1927年より開始され、工場における食品栄養価計算のさきがけとなった。

キーワード：工場食共同炊事場 工場飲食献立表 栄養普及